

特定複合観光施設区域整備計画審査委員会（第15回） 議事要旨

1. 日時：令和4年10月28日（金）13:00～15:00
2. 開催方式：対面（中央合同庁舎2号館12階国際会議室）及びWEB会議
3. 議題：
 - （1）事務局からの説明事項
 - （2）ヒアリング
 - （3）今後の審査の進め方について
4. 出席委員：竹内健蔵委員長、山内弘隆委員長代理、朝岡大輔委員、河島伸子委員、樋口進委員、古谷誠章委員、矢ヶ崎紀子委員
5. 議事要旨（✓：事務局 ○：委員 ◆：申請者）
 - ✓ 専門家への意見聴取（土壌、防災・減災対策関係）を行う旨及びオプザーバーの出席等について細則を設ける旨について説明を行い、委員了承となった。
 - ✓ 大阪へのヒアリングを実施した。
 - IRに反対する団体による署名活動等に対する受止めや、今後の対応等について聞きたい。
 - ◆ 反対団体等による活動は承知しており、真摯に受け止めているが、一方で公聴会等の必要な手続を経て議会での9割賛成の議決を得ており、適切に住民意思が反映されていると考えている。
 - ◆ 今後は説明会という形ではないが、HPの工夫等の効果的な情報発信等を行い、地域のIRに対する住民の理解促進に取り組んでいきたい。
 - ◆ 地元経済界からも強く期待されており、今後も大阪府・市と連携して住民理解を促進していきたい。
 - ファミリー層を含めた幅広い様々な客層に対してどのようなサービスを提供し楽しんでもらうことを計画しているのか。
 - ◆ 夢洲シアターにおけるショー、宿泊施設におけるプール・大浴場、関西ジャパンハウスにおける工芸の体験型ワークショップ等を通じ楽しんでもらうことを計画している。
 - IRの趣旨を踏まえ、大阪・関西を足掛かりにどのように日本全体の魅力を発信し、来訪者の増加に繋げていくのか。

- ◆ 大阪IRでは大阪、関西にとどまらず、日本全国のものを紹介し、送客施設等を通じて送客につなげ、日本各地の観光の魅力を発信し、観光振興に寄与する。また、全国の自治体やDMOが送客施設において直接的に情報発信すること、バスターミナル等の交通拠点を経由した日本全国へのアクセスをつくっていくことも考えている。
- 施設デザインの変更が想定されているようであるが、最新のパスを提出願いたい。今提示されている変更内容以上に今後も更なる変更がありえるのか確認したい。また、デザインへの提案を審査委員から行った場合、反映は可能か、伺いたい。
- ◆ 精緻なパスの更新には数か月要するため、少し詳細度を落としたものを提出できないか検討する。一部のホテル外観等に変更があるが空間全体の方向性に大きな変更はない。審査委員の意見は大変貴重と考えているが事業スケジュールに与える影響を踏まえ反映が可能なのか検討する。
- MUSUBIホテルの直線化については、流れるような造形で統一された全体の景観の中でインパクトがあるが、今後もこの方針のままなのか。
- ◆ 夢洲特有の地盤への対応といったところから直線化で設計をしている。一方で曲線を基調とした空間を維持するためにホテル低層部の庇や材料を工夫する方向で議論している。
- 想定する電子ゲーム機の構成について、諸外国との比較を踏まえ説明してほしい。
- ◆ テーブルゲームと電子ゲーム機等（スロットマシンのほか、電子テーブルゲームも含む。）の設置を予定しており、ゲーム構成は、顧客志向や市場動向を反映できるように、開業に近い時期に詳細を決めていきたい。
- 電子ゲーム機は依存性が高いと言われているが、電子ゲーム機の台数が多いことに関する特別な対策は想定されているのか。
- ◆ 電子ゲーム機の台数は来訪者需要に対応するものとなっており、全体に占める電子ゲーム機の比率は米国のカジノよりも低い。
- ◆ 電子ゲーム機の台数が多い印象を持たれる点は理解しているが、全国初となるギャンブル等依存症対策の条例が成立したところであり、今後もIRに取り組んでいく自治体としてしっかりと依存症対策を行っていく。
- ギャンブル等依存症にならないための予防が大事であり、発症抑制のために講ずる施策の有効性について、MGMが講じてきた施策の有効性を踏まえ説明してほしい。
- ◆ MGMはラスベガスにおいて、従業員研修や排除プログラムの導入、入場者の適切な判断を助けるための措置の導入等の取組、学術研究にも取り組む。米国では過去30年間にギャンブルが拡大したが、他方で、ギャンブル依存症有病率は1%以下にとどまっている、日本の文化や社会規範を取り入れ、これらの取組を大阪

IRで有効なものにしていく。

- 大阪依存症センターについて、予防対策、人材確保に向けた取組や人員配置及び運用等についての説明と、周辺地域との連携等を伺いたい。
- ◆ 大阪依存症センターでは、医師等や自助グループ等による相談のワンストップ窓口、依存症対策の調査研究、普及啓発等を予定し、組織と人員配置は、機能を確実に実施できる最適な体制とし、毎年度の事業化に当たって適切な予算を確保する。また「関西広域緊急医療連携計画」の中で、先進的な取組や関係機関との連携強化の事例等の共有を行い、隣接地域も含めた広域での依存症対策を深めていく。

- 受託型MICEと大阪IRで進めていくMICEの違い、実施する誘致営業活動の内容及び大阪府市・IR事業者の役割分担について説明頂きたい。
- ◆ 大阪IRでは、行政が会議場等の施設を所有し、時間貸しする従来の形ではなく、来訪者のアクセスからイベント後の食事や宿泊までをワンストップで提供し、民設民営ならではの柔軟な価格設定や優先予約確保が可能なものである。MGMの国際的なネットワークによりMICEのキーマンにアプローチしたり、大阪府・市において招聘レターを作成しトップセールスをかける等で誘致につなげていく。

- 夏の炎天下等を踏まえ、IR区域内の最長歩行時間はどの程度か。
- ◆ 地下鉄駅からイノベーションパークまでで最長1km強・約15分程度の想定であり、炎天下の移動を考慮しループバスによる移動を可能とすることも検討している。

- ハイエンド層の来訪者の滞在中の過ごし方について教えてほしい。
- ◆ ハイエンド層の来訪者は、高級レストランやショッピング、入手困難なスポーツイベント観戦等による滞在が想定される。

以上